

## 安全データシート

発行日 2016年9月15日

改訂日 2025年4月1日

## 1. 化学品及び会社情報

* 製品名	水性ウレタンニス つや消しけやき
* 整理番号	28206
* 会社名	和信ペイント株式会社
* 住所	〒340-0121 埼玉県幸手市上吉羽2100番地18
* 電話番号	0480-48-2021
* FAX番号	0480-48-2024
* 緊急連絡先	0480-48-2021
* 製品の種類	顔料型水性着色塗料
* 主な用途	木工塗装用

## 2. 危険有害性の要約

## 【GHS分類】

有害性項目	分類結果	注意喚起語	危険有害性情報
引火性液体	区分に該当しない		
急性毒性 経口	区分に該当しない		
急性毒性 経皮	区分に該当しない		
急性毒性 吸入:ガス	区分に該当しない		
急性毒性 吸入:蒸気	区分に該当しない		
急性毒性 吸入:粉塵、ミスト	区分に該当しない		
皮膚腐食性/刺激性	分類できない		
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない		
呼吸器感作性	分類できない		
皮膚感作性	分類できない		
生殖細胞変異原性	分類できない		
発がん性	分類できない		
生殖毒性	分類できない		
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2	警告	臓器の障害のおそれ
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2	警告	長年にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ
誤えん有害性	区分に該当しない		
水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない		
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない		
オゾン層への有害性	分類できない		

※ 注意喚起語は、「危険」がある場合は「危険」を、「危険」が無く「警告」がある場合は「警告」を表示します。

※ 特定標的臓器毒性(単回ばく露)、(反復ばく露)の詳細は、「11. 有害性情報」の個々の物質データをご参照下さい。

## 【GHSラベル要素】

健康有害性



## 【注意書き】

## 〔安全対策〕

- \* 使用前に注意書きをよく理解して取り扱うこと。
- \* 飲食または喫煙をしながらこの製品を使用しないこと。
- \* 必要に応じて個人用保護具(保護手袋および保護眼鏡・保護マスク等)を着用すること。
- \* 取扱い後はよく手を洗いうがいをする。

## 〔救急処置〕

- \* 火災の場合には、消火に炭酸ガス・泡・粉末消火器を使用すること。
- \* 眼に入った場合は直ちに水で注意深く洗い、医師の診断・手当を受けること。
- \* 皮膚または衣服に付着した場合は直ちに大量の水と石鹼等で洗い、汚染された衣服は新しい物に取り替えること。
- \* 気分が悪くなったり皮膚刺激等異常を生じた場合、医師の診断・手当を受けること。
- \* ばく露又はばく露の懸念がある場合は、医師の診断・手当を受けること。

## 〔保管〕

- \* 換気の良い冷所で保管すること。

## 〔廃棄〕

- \* 残塗料・廃液および容器は河川や下水道に捨てず、市町村の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名又は一般名： 顔料型水性着色塗料

成分名	重量 (%)	CAS No.	化学式	通知対象物質
水	50～60	7732-18-5	H <sub>2</sub> O	—
樹脂	30～40	—	—	—
ジプロピレングリコール-n-ブチルエーテル	5～10	29911-28-2	C <sub>10</sub> H <sub>22</sub> O <sub>3</sub>	○
アモルファスシリカ	1～5	—	SiO <sub>2</sub>	○
プロピレングリコール	1～5	57-55-6	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> O <sub>2</sub>	○
助剤	0～1	—	—	—
顔料	0～1	—	—	—

## 4. 応急措置

## 〔飲み込んだ場合〕

- \* 無理に吐かせずに、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- \* 嘔吐物は飲み込ませないこと。

## 〔吸入した場合〕

- \* 蒸気ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けること。

## 〔皮膚に付着した場合〕

- \* 付着物を布で素早く拭き取り、大量の水及び石鹼、又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーなどは使用しないこと。
- \* 外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。

## 〔眼に入った場合〕

- \* 直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- \* 出来るだけ速く医師の診断を受けること。

## 5. 火災時の措置

## 〔適切な消火剤〕

- \* 水(○), 炭酸ガス(○), 泡(○), 粉末(○), 乾燥砂(○), その他( )

## 〔火災時の特有の危険有害性〕

- \* 製品自体に可燃性はないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。
- \* 燃焼すると、一酸化炭素を発生する可能性がある。

## 〔特有の消火方法〕

- \* 消防隊に火災の場所と危険有害性を伝える。 \* 可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
- \* 呼吸用保護具と防護手袋を着用する。 \* 消火活動は風上から行う。
- \* 指定の消火剤を使用する。 \* できる限り流出物が配水管または水路に入るのを防ぐ。

## 〔消火活動を行う者の保護具等〕

- \* 状況に応じて呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等を使用する。

## 6. 漏出時の措置

## 〔人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置〕

- \* 作業の際には保護具(手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等)を着用する。

## 〔環境に対する注意事項〕

- \* 流出物が配水管または水路に入るのを防ぐ。
- \* 配水管または水路の汚染が生じる場合は関係機関に連絡する。

## 〔封じ込め及び浄化の方法及び機材/二次災害の防止策〕

- \* 漏出物は密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- \* 乾燥砂、土、その他の不燃性材料を用いて流出を阻止し、残留物を吸着させて回収する。
- \* 蒸気の拡散を吸収するのに水スプレー噴霧を用いてもよい。
- \* 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

## 〔技術的対策〕

- \* 労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。
- \* 正しい作業手順を定め、作業環境を許容濃度以下に保ち、換気をよくして、吸入・接触を避ける。
- \* 取り扱い後は必ず手を石鹼水で洗浄し、作業着は他の衣類と分けて洗濯する。

## 〔注意事項〕

- \* 強酸化剤との接触を避ける。加熱・酸性・アルカリ性物質により反応を誘発する危険性があるため注意すること。
- \* 容器は破損・腐食・割れ等のないものを使用し、使用済容器は一定の保管場所に集積する。

## 〔保管〕

- \* 涼しい場所・換気の良い場所で容器を密閉して保管すること。

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度、管理濃度(職業的暴露限界値、生物学的限界値)皮膚等障害化学物質

成分名	管理濃度	許容濃度	ACGIH・TLV	PRTR	皮膚有害物	
					刺激性	吸収性
水	—	—	—	—	—	—
樹脂	—	—	—	—	—	—
ジプロピレングリコール-n-ブチルエーテル	—	—	—	—	—	—
アモルファスシリカ	—	—	—	—	—	—
プロピレングリコール	—	—	—	—	—	—
助剤	—	—	—	—	—	—
顔料	—	—	—	—	—	—

## 〔設備対策〕

- \* 取り扱い場所の近くに安全シャワー・手洗い・洗顔設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- \* 「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい位置に掲示すること。

## 〔保護処置〕

- \* 必要に応じて適宜、次の保護具を着用する。  
送気マスク・空気呼吸器・酸素呼吸器・有毒ガス用防毒マスク  
保護眼鏡・不浸透性の保護手袋・保護長靴・防護服。
- \* 保護具はチェックリスト等を用いて定期的に点検する。
- \* 作業中は飲食、喫煙はしない。飲食、喫煙前は石鹼で手を洗う。
- \* 使用時に喘息の症状が現れた場合、以後接触しないこと。症状が再発する可能性がある。
- \* コンタクトレンズは特別な危害をもたらす。ソフトレンズは刺激物を吸収して、それらを濃縮する可能性があるため使用しないことが望ましい。
- \* 有機溶剤又は化学薬品が浸透しない化学用保護手袋着用が望ましい。

## 9. 物理的及び化学的性質

## 〔性状: 液体〕

塗料液の色	製品名中に表示	密度	1.06 g/mL (25°C)
臭気	わずかに樹脂臭	pH	7 - 9

## 10. 安定性及び反応性

## 〔化学的安定性〕

- \* 通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

## 〔危険有害反応可能性〕

- \* 酸化性物質と反応する。
- \* 危険な重合は起こらないと思われる。

## 〔避けるべき条件〕

- \* 高温、火花・裸火等の着火源を避けること。
- \* 熱・光・金属粉や過酸化物の混入。
- \* 有機溶剤蒸気など。

## 11. 有害性情報

成分名	急性毒性					皮膚 腐食性 /刺激性	眼に対する 重篤な損傷性 /眼刺激性
	経口	経皮	吸入： ガス	吸入： 蒸気	吸入： 粉塵、ミスト		
水	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
樹脂	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
ジプロピレングリコール-n-ブチルエーテル	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない
アモルファスシリカ	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
プロピレングリコール	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	区分に該当しない	区分に該当しない
助剤	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
顔料	分類できない	分類できない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

成分名	呼吸器感受性	皮膚感受性	生殖細胞 変異原性	発がん性	生殖毒性
水	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
樹脂	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
ジプロピレングリコール-n-ブチルエーテル	分類できない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない
アモルファスシリカ	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
プロピレングリコール	分類できない	区分に該当しない	分類できない	分類できない	分類できない
助剤	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない
顔料	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

成分名	※ 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	※ 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	誤えん 有害性
水	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
樹脂	区分に該当しない	区分に該当しない	区分に該当しない
ジプロピレングリコール-n-ブチルエーテル	分類できない	区分2 呼吸器 肝臓	分類できない
アモルファスシリカ	分類できない	分類できない	分類できない
プロピレングリコール	区分1 中枢神経 血液 区分3 麻酔	区分1 中枢神経 呼吸器	分類できない
助剤	分類できない	分類できない	分類できない
顔料	分類できない	分類できない	分類できない

※ 有害性情報は化学物質固有のデータであり、含有濃度によって変化するものではありません。

## 12. 環境影響情報

成分名	水生環境 有害性 短期(急性)	水生環境 有害性 長期(慢性)	オゾン層へ の有害性
	水	区分に該当しない	区分に該当しない
樹脂	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
ジプロピレングリコール-n-ブチルエーテル	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
アモルファスシリカ	分類できない	分類できない	分類できない
プロピレングリコール	区分に該当しない	区分に該当しない	分類できない
助剤	分類できない	分類できない	分類できない
顔料	分類できない	分類できない	分類できない

- \* 残留性/分解性  
混合物としてのデータがない。
- \* 生態蓄積性  
混合物としてのデータがない。
- \* 土壌中の移動性  
混合物としてのデータがない。

※ 有害性情報は化学物質固有のデータであり、含有濃度によって変化するものではありません。

## 13. 廃棄上の注意

- \* 一定の容器に収集し、廃棄物処理免許を持つ処理業者に処理を依頼すること。
- \* 容器は、内容物を完全に除去した後処分すること。
- \* 内容及び容器は国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

## 14. 輸送上の注意

## 〔国内規則〕

- \* 特段の規制はない。

## 〔国際規則〕

- \* 国連番号 なし
- \* 国連分類 国連勧告の定義上危険物に該当しない。

## 〔輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策〕

- \* 車両等によって運搬する場合、荷送人は運送人に運送注意事項やイエローカードを携帯させる。
- \* 輸送前に容器が密閉されているか、又は液漏れがないか確認する。
- \* 輸送及び運搬の際は、常に容器をしっかり固定すること。特にビン又は缶は輸送中に互いに衝突して破損することのないようにあらかじめ適当な緩衝物を詰めておく。

## 15. 適用法令

- |                         |       |
|-------------------------|-------|
| * 労働安全衛生法：危険物：          | 該当しない |
| 有機溶剤中毒予防規則：             | 該当しない |
| 鉛中毒予防規則：                | 該当しない |
| 特定化学物質等障害予防規則：          | 該当しない |
| 皮膚刺激性有害物：               | 該当しない |
| 皮膚吸収性有害物：               | 該当しない |
|                         |       |
| * 化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）： | 該当しない |
| * 毒物及び劇物取締法：            | 該当しない |
| * 消防法：                  | 該当しない |
| * 船舶安全法：                | 該当しない |
| * 悪臭防止法：                | 該当しない |

## 16. その他の情報

## 〔主な参考文献〕

- \* 独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) 公表データ
- \* 社団法人日本塗料工業会 原材料物質データベース
- \* 社団法人日本塗料工業会 GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物(塗料用)〕
- \* 社団法人日本塗料工業会 モデルMSDS・モデルラベル事例集〔混合物(塗料用)〕
- \* 中央労働災害防止協会 GHS対応による混合物(化学物質)のMSDS作成手法の研修テキスト
- \* 有機合成化学協会 新版溶剤ポケットブック
- \* 危険防災救急便覧
- \* 国際化学物質安全カード(ICSC)
- \* 使用原料のSDS

## 〔注意事項〕

- \* 本文書は現時点で入手できるデータに基づいて作成しておりますが、各成分の含有量、物理化学的性質、危険性・有害性等に関して保証をするものではありません。
- \* 新しい知見や安全情報が判明した場合は、本文書の内容を予告なく変更する場合があります。
- \* 本文書の各項目は通常の取り扱いを対象としています。  
特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用下さい。
- \* すべての化学製品には未知の危険性・有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。  
ご使用各位において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。
- \* 本文書の適用範囲は日本国内に限ります。